

リッチモンド・ロビン・リーダーズ案内 ——ティーンエイジャーの冒険物語——

横山 孝一*

(2020年11月25日受理)

はじめに

リッチモンド・ロビン・リーダーズの特徴は、レベル1から読み始めればすぐ気づくように、体験型の小説が揃っていることだ。スキー、スキューバダイビング、海難救助、気球、ヨット、野焼き、語学留学、演劇、出店、犬の散歩のアルバイト、ハイキング、サーフィン、オリエンテーリング、ミュージカル、ケータリング、トレーラーハウス暮らし、急流筏下り、セスナ機の操縦など、やろうと思えばすぐにでも学べそうなことから、おもしろそうだが難しそうなことまで、さまざまな余暇の活動が物語展開の重要な部分を占めている。これまで興味がなかったようなことでも、このシリーズを読んでやってみたくなることもあるにちがいない。危険を伴うことが本編中にはっきり描かれているが、Denise Kirbyの*Hot Air*を読めば、気球に乗ってみたいくなるだろう。また、Sue Murrayの*Wild Water*を読めば、筏で川を下ってみたいくなるのではないか。どちらの作品も予期せぬ事故をスリリングに描き、その後の人生を変える冒険の意義を語っている。Alan MilsonのSF作品*The Creature*が扱う宇宙探査などは本シリーズ中の例外であり、ほとんどが望めば体験できそうなことを題材にしているので、身近に楽しむことができる。事実、レベル1の*Adventure in the Alps*はスキー初心者向け、*Divers in Danger*はスキューバダイビング入門編として役立ちそうだ。

舞台になっている国や都市も海外旅行の目的地として興味がわく。エジプト、ローマ、ザンビア、モンゴル、アイルランド、サンフランシスコ、ニューヨーク、ロンドン、フィジー、マリョルカ島、グラスゴー、ペルー、サモアなど世界中にわたっている。経済開発を背景にしたレベル3の*Double Trouble*や自然災害の悲惨さを描いたレベル4の*Blown Away*は、発展途上国に対する西洋人の異文化理解が書き込まれていて興味深い。なお、一番多く舞台になっているのはオーストラリアだ。約10作品がオーストラリアの広大な自然と人々の日常を扱っており、リッチモンド・ロビン・リーダーズの特徴的要素と

なっている。クロコダイルやカンガルーのいるこの国の魅力は、Jane Bowringの*Cousins and Crocodiles*や、James Royの*Broken Wings*の独創的な物語にうまく取り込まれている。Mary Tomalinの*When the Sea Came In*は、大洪水後の未来のオーストラリアを舞台にしているが、SFではなく描かれているのはオーストラリアそのものだ。

リッチモンド・ロビン・リーダーズはレベルが1から6まであり、読者は主人公から見ると、12、3歳から19歳つまりティーンエイジャーを対象にしている。そのためだろうか、大人の泥棒と対決する物語がやたらと目につく。51冊中じつに半分がその手の話でマンネリズムに陥るきらいがある。銃などの殺傷力のある武器を持った凶悪犯を相手に戦う物語は、マンガじみたユーモア小説か、ぞっとする恐怖小説になる傾向がある。代表的な例を挙げると、楽しく読める前者はDenise Kirbyの*The Black Night*、怖い後者はPauline O'Carolanの*Deadly Holiday*だ。どちらも本シリーズの主力作家で、Kirbyはある意味とても恐ろしいシリアスな歴史ものの秀作*What Happened at Seacliffe*も書いている。O'Carolanのほうは放火魔、赤ん坊誘拐犯、ストーカーなど人間の異常心理と悪を好んで描き、後味の良くない作品が多いが、主人公の不良少年がシリアルキラーと闘う*Stranger Danger*は彼女の持ち味が活かされたサスペンススリラーとしてお勧めだ。

グレイディッド・リーダーを読む楽しみは、一般に知られていないおもしろい物語と出会えることだ。リッチモンド・ロビン・リーダーズで見逃せない力作を他に挙げると、旅客機の大事故を飛行機マニアの少年が食い止める*Planespotting*、発明したイケメンロボットが学校で騒動を巻き起こす*CHOIR Boy*、夢の中でいじめっ子に仕返しする*In Sarah's Dreams*、村でのけ者にされるせむしの少女が子供をさらう魔物と対決する*The Rainbow Girl*、未来を読む能力を持つ少年が悪政を敷く軍人の野望を阻止しようとする*The Sky Readers*がある。他にも、自分好みの物語が見つかるかもしれない。

以下、計51冊のあらすじと読みどころを紹介しよう。

*人文科学系・英米文学

Level 1 (見出し語 300 語)

1) *Adventure in the Alps* (Pauline Francis)

アルプスの Morvine 村。ロンドンから来た Lisa たちは地元の Guy からスキーを学んでいる。初心者の彼女はリフトに乗るのも怖かったが、転びながらも次第に滑るのが楽しくなる。しかし、ホテルまでスキーで降りるのは躊躇し、一人リフトで帰ることに。そのとき、大きな岩から懐中電灯が光るのを見る。Tom が Guy に止められていた危険なスロープを滑ろうとして怪我したのだった。リフトは終了してしまい、Lisa は星空の下、転びながらもスキーで降りて助けを呼ぶ。レスキュー隊のヘリが、Lisa の黄色い帽子をかぶった Tom を無事救助する。(単純な物語ながら、Lisa の勇気ある活躍が光る。)

2) *Cousins and Crocodiles* (Jane Bowring)

オーストラリア。イングランドから母の妹一家が遊びに来て一緒に旅行する。12歳の私(Susie)は、いとこである10歳のAliceと5歳のJamieの姉弟げんかに内心うんざりしている。クロコダイルを怖がる弟を本好きのAliceが何かとからかっているのだ。水泳プールでも水中にクロコダイルがいると脅かして、Jamieはパニックに陥る。逃げ出して行方不明になってしまうのだ。母からJamieの世話を頼まれていた私は、小川を渡った車が「安全」だったことを思い出し、後部座席で寝ているJamieを発見する。小さなトカゲはかわいいと思うJamieに「クロコダイルはそのいとなのよ」と私が教える。すると、観覧ボートから見つけたウォータードラゴンにJamieは感激、初めて見る本物のクロコダイルにも怖がらなかった。(繊細な子供の心理を巧みに描いている。かわいらしい秀作だ。)

3) *Divers in Danger* (Sue Murray)

グレートバリアリーフ。スキューバダイビングの免許が取れるサンゴ礁での5日間コース。Rudy先生のもと、フィジーで潜ることをめざして日本人カップルNorikoとYoshiも参加しているが、主人公はシドニー出身の19歳Ben。バディを組んだ同郷のKar1が、とんでもなくわがままで、Benのタオルを勝手に敷いて座り、エアタンクも自分で片づけようとしない。海中でも単独で行動し、巨大な貝にオクトパスを挟まれて、タンクが空になってしまう。Benは習ったとおり、自分のタンクの空気を吸わせて救助。Kar1は免許取得を断念し、BenはRudy先生のパディに指名されて喜ぶ。(スキューバダイビングの水中での合図などが学べる。パニックに陥ったバディを落ち着かせる緊急時の対応は、物語の緊迫感を高めながら読者にとって有益な知識となる。)

4) *Land of Gold* (Claire Craig)

Johnson先生が引率するクラスのエジプト旅行中に、黒いスーツの男がCateのカバンをすり替える。中には、盗んだQueen Nefertariの黄金の像が入っていた。警察の目を逃れた怪しい男は、隙を見てカバンを回収。探偵小説マニアのCateは早くから犯人と意図に気づいていた。親友の私(Maddy)は、神殿で盗品の黄金像を売るつもりで黒いスーツの男を追ってつかまってしまうが、砂で目つぶしを食らわし、警察の逮捕につなげる。

(エジプトのエキゾチックな雰囲気の中で起こる怪事件と少女コンビの活躍が楽しい。)

5) *Lost in the Rain* (Jane Bowring)

Sallyは、雨に濡れたキングチャールズスパニエル犬が自宅の玄関先にいるのを見て一緒に帰宅。母も友達のLizも気に入ってくれて、自分のものにしたかったが、Daisyという名前があり公園で老人がかわいがっていたと聞いて、飼い主の老人を捜すことに決める。やっと見つけたMr Harrisは脚の手術で入院することに。その間Daisyの世話を買って出たSallyは、Mr Harrisの退院後、Daisyが生んだ子犬を一匹お礼にもらう。

(公園で老人が手にしていたコーヒーと新聞を手掛かりに捜す場面が読みどころ。キングチャールズスパニエル犬の顔を大写しにした表紙写真とやさしい表情のSallyを描いたElizabeth Botteの挿絵6枚が内容とマッチして印象に残る。)

6) *Planespotting* (James Bean)

飛行機マニアのGary13歳は夕方、シドニー空港を離陸する旅客機を眺めていたが、何かそばに落下するのを目撃。フェンス越しに写真をとる。警備員に追い払われ、両親は慌ただしく旅行に出かけ、監督する17歳の兄Russellは「数学の試験勉強をしろ」というばかりで聞く耳を持たない。ゲームで兄が占領するパソコンを、恋人からの電話で空いた隙に使い、写真に写る部品が何かマニア向けのサイトの質問コーナーに投稿。なんと、着陸時に車輪を出すパーツだという。それを知った翌朝、Garyはシドニー空港に電話するが、いたずらと決めつけられてしまう。そこで、旅客機の目的地のロサンゼルス国際空港近くに住むアメリカ人のマニアに電話をかけて、この危機を知らせてもらう。Garyは大事故を防ぎ、パイロットからも感謝され、LAへ招待される。

(優れたグレイディッド・リーダーに贈られるLanguage Learner Literature 賞の最終候補だけあり、おもしろい。インターネットが物語展開の鍵で、国際電話のかけ方もネットで調べ、飛行機の無事もネットのニュースで知る。国境を越えたマニア間の友情も心地よい。)

7) *The Football Match* (Pauline Francis)

ロンドン在住のBen 13歳は、ローマに住む友人のNicoからイングランド対イタリアのサッカーの試合に誘われ、イタリアに飛ぶ。ところが、飛行機で知り合ったLizzieが二人の観戦チケットを盗み、ボーイフレンドのMaxとスタジアムへ。警官に訴えても助けてもらえず、あきらめてアパートに帰る途中、立ち往生している車を押すのを手伝う。その車の主は、イタリアチームのFlavio選手の両親で試合を見に行く途中だった。BenとNicoはあまったチケットをもらって観戦したばかりか、英国で行なわれる5月の試合にも招かれて大喜びする。

(単純だが、選手と一緒にBenとNicoを見て、チケットを盗んだカップルがあっけにとられるラストが痛快。)

8) *The Right Team* (Alan C. McLean)

ザンビアのサッカーチームでゴールを決めたMumbaは、英国リバプールのMersey CityでプレーしないかとTom Delaneyにスカウトされる。金持ちになれるという誘いの言葉を教師の母親は嫌うが、ファミリーとして大事にすると説得され契約書にサインする。しかし英国に渡ったMumbaは憧れのチームではなく3流チームのBlackport Unitedに行かされる。帰りたくなるが、そこで頑張ると心に決める。格上のMersey Cityと対戦するチャンスが巡ってくると、負けはするものの2点得点し、尊敬するMichael Woko選手とユニフォームを交換。この活躍で、晴れてMersey Cityに迎えらる。1年後ユーロカップの決勝戦で、スペインのSporting Catalunyaと対戦。Michael Wokoと交代して出場したMumbaは、ヘディングでゴールを決め、優勝。ヒーロー・インタビューを受け、テレビ画面の母にMichael Wokoを連れて帰国すると話す。(フィクションだが、アフリカ人の若者がサッカー界で成功をつかむ興奮と感動がひしひしと伝わってくる。)

9) *The Young Riders* (James Bean)

5月のモンゴル。7月には子供たちが愛馬で30キロの過酷なコースを走って「一万頭中一番の馬」を決める毎年恒例のThe Naadam Gamesがある。Tuli少年は速い黒馬で優勝をめざしていたが、張りきりすぎて馬と共に怪我してしまう。代わりに11歳の妹Ariunaが2か月特訓して、母が作ってくれた上着を着て茶色の馬で出場。灰色の馬で優勝を確信していた自信満々のDelger少年は落馬して頭と脚を負傷。Ariunaは、彼を助けて馬に乗せ、最後にゴールする。しかし、騎手なしで1位になった灰色の馬に跨る栄誉をDelgerから譲られて、勝者に贈られる馬のミルクを観衆の前で飲み干す。そして、兄のTuliもまじえて、来年は自分の茶色の馬で勝つことを誓うのだった。(モンゴルの風土と伝統を活かした爽快な物語。)

Level 2 (見出し語 500 語)

10) *Between the Flags* (Denise Kirby)

Scottの15歳の誕生祝い。オーストラリアの海岸人命救助員と一緒にめざしている親友のAndyがくれたカードを見て、2年前から同居する祖母のNannaの態度が急変したのはなぜ? 正式の救助員になる試験を来週に控え、特訓の毎日。オーストラリアで海岸人命救助が始まって百年を祝う回顧展のために古い写真を整理する老人から、Scottは、Frank Landerにそっくりだと言われる。勇敢な救助員だった祖父Frankは1963年、母が4歳の時に嵐の中、幼い兄弟を助けようとして亡くなったのだった。救助は失敗、3人はそのまま海に消えてしまったと祖母が明かしてくれた。そして今、行きつけの店に遊びに来ていた19歳のギリシャ人女性Eleniが強風の中溺れ、Scottが単身助けに行く。激浪にもひるまず岩にぶつかって大怪我を負いながらも彼女を離さず、救出に成功。Andyと一緒に救助員の試験は受けられなかったが、勇敢な救助員を称えるメダルを美しいEleniから授与される。(前半は祖父の謎、後半は迫力ある人命救助でおもしろく一気に読ませる。祖父にできなかったことをやり遂げる成功物語でもある。)

11) *Blue Moon Beach* (Sue Murray)

海鷲の観察が好きな僕(Samuel Martin)15歳は、ブルームーンビーチでホテルを経営する両親と暮らしている。5週間の夏休みの初日に、病気で夫を亡くした親友を母が招き、その息子Timの相手をするよう命じられる。同じ齡だが、都会育ちで気難しく友達になるつもりがない。しかし、海鷲の巣に近づいて海に落ち、泳げず溺れかけたのを助けると、心を開いた。僕は、夜中に海鷲を見に連れ出す。するとそこにトラックが止まっていて、朝から怪しい行動をしていた二人組が巣から海鷲と卵を盗みだした。車に詳しいTimはトラックの燃料パイプを石で壊し、僕は鳥用の網を仕掛けて二人を捕まえる。助けを呼び、Carter巡査が駆けつけてくれて、野鳥泥棒は逮捕された。夜中に起こされた親たちは驚くが、過保護だったTimの母親が息子の自立を認めるきっかけとなった。僕たちは2週間一緒に過ごし、別れの日海鷲の赤ちゃんが生まれる。Timはその鳥が飛び立つ頃戻ってくると約束する。(育ちの違う少年二人の友情物語。夏休みの一晩の冒険が中心だが、海鷲のひなの誕生と絡め、二人の成長が爽やかに描かれている。)

12) *Death at Hadrian's Wall* (Denise Kirby)

ケータイとコンピューターゲームに依存するJackは、1日10分の逆立ちを欠かさない祖父のPemから、文明の

利器を置いて親友のMitchellと共に、ローマ時代に建設されたハドリアヌスの長城に沿って英国を横断する徒歩旅行を提案される。春休み、二人は祖父の挑戦を受けて立ち、食料にテントと寝袋という重い荷物を持って、くたくたになるまで歩く。体力は一晩寝ると回復して意外に歩けることがわかったが、降り続く雨には閉口する。しかも近くに男の死体が流れ着くと、旅は急変。男が身につけていたハドリアヌス皇帝のレアコインをめぐって、殺人者の男女が追いかけてくる。捕まれば殺される。切羽詰まった二人は反撃にでる。罌を仕掛け、女にテントを男に寝袋をかぶせてロープで縛り上げ、必死に逃げる。懐中電灯が壊れ真っ暗闇の中をひたすら逃げる。そして、ドイツ人旅行者のテントにたどり着いて、ケータイで警察を呼んでもらうのだった。豪胆な祖父は旅がまだ半分残っていると言うが、「次はケータイを持って行けよ」と付け加えるのを忘れなかった。(物語のジャンルが途中で切り替わる。殺されるかもしれないという思いで必死に逃げる場面は本当に怖い。)

13) *Hot Air* (Denise Kirby)

目的地まで63キロ。父の車は時速80キロで走っている。8歳の弟Rileyは47分15秒で着くと言いついで、何の才能もない15歳のわたしDonnaは絶望的な気持ちになる。しかし、週末に一家で初めて乗った気球はすばらしかった。早朝4時に起きて気球から眺める日の出の美しさに感動した。22歳という若いRossから気球の操縦方法も学ぶことができた。その後、強風で予期せぬ事故が起こる。Rossに甘えていた16歳のKatieが着地後すぐ手を離さなかったために吊りかごに手をかけたまま上昇。なんとかかごに助け入れることができたが、気球は送電線に接触しそうになり、乗客たちはパニックを起こす。風に流され、地面にぶつかって着陸するも、頭を打って気絶したRossを乗せたまま気球はまたも浮き上がる。彼を助けに戻って気球を制御したのは、このわたしだった。初めて心の中に自信が芽生え、満足感を味わう。(「お家に帰りたい」と泣くKatie。「料金を返してもらおう」と怒るMrs Thornton。怪我人たちがパニックに陥る中、冷静な語り手兼主人公 Donnaの活躍がなんとも頼もしい。)

14) *Lucky for Some* (Paula Smith)

女子バスケットボールチームで活躍したMadisonは家族と引っ越し、その町のThe Colby Raidersに加わるが、思うようにプレーできない。監督の娘に意地悪をされ、呪われた9番をもらったせいかと思いはじめる。1979年、その番号をつけていた女子が消えてしまい、以来、その番号をもらった選手は怪我をするなどの不幸に見舞われているという。Madisonは監督から「2週間で成果が出

せなければ格下のBチームに行ってもらおう」と宣告される。あせる彼女を見た双子の兄Danielが真実を知るべく、ジングスの発端となった問題の女性Maxineを電話で捜し出し、本人の口から真相を聞く。彼女は親の離婚問題やチームでの嫌がらせなどで悩んで、家出したのだった。9番とは何の関係もなかった。Maxineが応援に駆けつけてくれた試合で、Madisonは気兼ねなくプレーする。

(真相を知って迷信を乗り越える10代の女の子の物語。新しい環境に適応するヒントになる。)

15) *Pirates!* (Pauline Francis)

夏休み、Kit Chaipan16歳は海に来る観光客の写真を撮っているが、新しいカメラが欲しい。一方、Anna15歳は、有名人を乗せるBobのヨットで昼食を作るアルバイトをもらい大喜び。そこへ雑誌記者のふりをした女性Jadeと銃を携帯する大男Tommyが現われる。Kitは二人に雇われ、Annaからヨットの客が誰か聞き出そうとする。Chasという名を聞き、ムーンアイランドで撮影がある映画俳優のChas FordとMaria Celliniと推測。Kitは黒いモーターボートに乗せられて、パパラッチのまねごとを強要されるが、JadeとTommyの真の目的はMariaのダイヤの指輪など貴重品の強奪だった。KitとTommyが海に落ちるハプニングがあり、Jadeのみモーターボートで逃亡。Bobが投げしてくれたライフジャケットで、Kitが泳げぬTommyを助ける。大嵐になって、疑われるKitも手伝い、救命艇に助けられる。Kitは犯行現場を撮影しており、誤解も解け、映画俳優の勧めでムーンアイランドの撮影クルーに加わる。嵐の中活躍したAnnaのほうは、Bobに気に入られ、ヨットの操縦を習いながら帰途につく。

(夏休み、十代の男女の職業体験を兼ねた冒険物語。)

16) *Playing with Fire* (Pauline O'Carolan)

農業にあこがれる父が古い農場を買い、私(Lizzie 14歳)たちBaxter一家は田舎町に引っ越し、野を焼いて雑草を抜く大仕事に取りかかる。隣人のKirkは都会人を軽蔑し、同い年の娘Eveから私も嫌がらせを受けるが、私の妹のRosieはEveの妹弟と仲良くなった。野焼きの夜から不審火が続き、妹たちが内緒で泊まっている古い納屋にも火がつけられた。偶然目撃した私が必死で助け出し、ケータイで父に知らせる。消防車が駆けつけて消火し、全員無事だった。犯人はKirk家の長男Jay。消火活動にボランティアとして参加し、火事を見るのが快感になっていたのだ。もちろん、放火した納屋に自分のきょうだいがいるとは知らなかった。父は、泣いているJayを慰める。彼は逮捕されるが、これを機会にKirk家との付き合いが好転。私も、Eveから意地悪をされなくなる。

(とても独創的な物語で、不思議な味わいがある。)

17) *Ride for Your Life* (Pauline O'Carolan)

母が入院することになり、Annie 13歳はJeanおばと過ごすためにアイルランドへ。なぜか迎えがなく、バスでBallycareまでやって来た。おばが住むFive Trees Farmは5キロ先と聞いて困ってしまうが、教えてくれたPat少年が戻ってきて黒馬Midnightで送ってくれた。農場は留守だったが、ドアが施錠されておらず中で待つことができた。夜、おばが帰ってきて迎えに行けなかったことを詫げるが、怒っている声がして、おじのBrendanはAnnieを歓迎していないようだった。納屋に明かりが見え、外に白い車があった。おばは泣き、様子がおかしい。翌朝おばは、囚人の脱走を伝えるラジオを慌てて切ろうとして落として壊してしまう。7歳の娘Maryの姿がなく何かが変わった。Patが遊びに来て乗馬を教えてくれた。納屋に手足を縛られたMaryとBrendanの隠した金を見つけ、馬泥棒のおじが凶悪犯と刑務所を脱走したことを知る。Annieは二人の車に追いかけるが、習った乗馬の技術をフルに発揮してMidnightを町の店まで走らせ、警察に通報する。(少女の不安感がよく描けているが、設定が突飛で展開が急すぎる。謎の真相も不快だ。)

18) *Ruby's Gift* (Sue Murray)

Jeremyは母とサンフランシスコを観光し、アフリカの手芸品を扱うギフトショップでサルぬいぐるみを買う。再婚した父とTanyaの赤ちゃん、Rubyへのお土産だった。ところがその後、金髪の大男につけ狙われバックパックを奪われそうになる。空港で母と別れると、無理やり、中のサルぬいぐるみをつかみ出され、首がちぎれてしまうがその首も胴体も盗まれてしまう。そこで終わらず、ニューヨークへ単身父の一家を訪れた後も、終始見張られ、しつこくつけ狙われる。ジョン・レノンを記念したストロベリーフィールズに皆でピクニックへ行ったとき、再度バックパックを力づくで奪われそうになるが、警官が馬で駆けつけて犯人逮捕となる。サルぬいぐるみを使ってダイヤモンドを密輸し、店員が商品と間違えて売ってしまったというわけだ。肝心のダイヤは、ぬいぐるみの中からバックパックの底にこぼれ落ちていた。(陳腐だが、再婚した父の新しい妻に対するJeremyの葛藤を絡めたことで、なんとか読める物語になっている。)

19) *Shopping for Trouble* (Paula Smith)

ロンドンの英語学校に留学中のフランス人Colette 15歳は特別に許可をもらい、他の学生たちがバスで動物園見学に行く日に、フィンランドの留学生Annika 17歳とナショナルギャラリーに絵画を見に行く。英語が上達している年上のAnnikaの指導で地下鉄の切符や昼食のサンドイッチを英語で買い、好きな絵を楽しむことができた。

しかしAnnikaは絵に興味がなく、服を買いに行くと言い出す。先生との約束違反を気にしながら付き合い、デパートにも行く。そして、Annikaがプレスレットを万引きしているところを目撃してしまう。警備員に呼び止められ、Annikaは逃走。代わりにColetteが取り調べを受け、苦勞して英語を使うはめになる。証拠が見つからず、捕まったが盗品を捨てていたAnnikaと自由の身になる。約束の時間をオーバーしたうえ、学校ではカメラの盗難事件があつてその犯人もAnnikaと判明。やめられない盗み癖を告白され、Coletteは先生に話すよう説得。Annikaは急きよ帰国することになったが、カメラは戻ったので、誰が盗んだかは伏せておくことにした。(ブラジル、スペインなど世界中から留学生が集まる中、特定の国の生徒を泥棒にするのは問題で、違和感が残る。)

20) *The Black Night* (Denise Kirby)

絵を描くのが大好きなArchie14歳は、地元の美術館に通って、あこがれの画家Emmett Blakeの絵画The Black Nightを模写。閉館時間となり、帰る前にトイレに行かせてもらう。ところが、突然停電。ドアが開かず、暗闇の中、ケータイを水洗トイレに流してしまい、片足を便器に突っ込みながらも、脱出に成功。車椅子の受付嬢Tashと出会い、泥棒が入ったと知る。外は嵐。警備員は殺されたと聞きぞっとするが、彼女は大事な絵を守るべきと主張し、階段下に罫のワイヤーを張る。運動音痴で気弱なArchieは絵とTashを守るため、展示物の黒い鉄兜をかぶり両手に大小の剣を持って、勇ましく階段の手すりを滑り降りる。バスケットボールをやっているTashと連携して、三人組の泥棒を一瞬で撃退し、通報。The Black NightならぬThe Black Knight(黒騎士)となって活躍したArchieは表彰され、美術館の永久無料入館券を贈呈され、さらにTashのおじであったEmmett Blakeの個人レッスンを受ける褒美をもらう。(安全な冒険を提供するコミック小説なので、警備員はもちろん無事で、頭を殴られエレベーターに閉じ込められていた。Archieは漫画じみているが、Tashのキャラは魅力的だ。)

21) *The Bride Wore Black* (Pauline O'Carolan)

姉のKateが金持ちのSteve Blackと結婚。わたしMolly 14歳は、犯罪一家であるBlack家の人たちが大嫌いだった。屋敷での披露宴中にウエイターの格好をした3人組が銃を向けて、人々から宝石類を巻き上げる。母も大事な指輪を盗られて泣いた。そして新郎のSteveが射殺されるという悲劇が起こる。犯人たちはストッキングをかぶっていて顔がわからなかったが、推理小説が大好きなわたしは、Steveの秘書で恋人だったBeaが犯人の一人といるところを目撃していた。Steveの不可解な死から、

強盗ではなく殺人が目当てだったのではと推理。果たして、BeaがSteveと結婚するために恋敵のKateを殺す計画だったものを、Steveと一緒に踊ること拒否したため、代わりにSteveを殺させたBea本人が告白する。(女のどす黒い嫉妬を描き、若い読者にはどぎつい内容。)

22) *The Show Must Go On* (Sue Murray)

Tomは親友で同じ俳優志望のFraserからテレビドラマで有名なHeath Mason主演の舞台劇『ハムレット』を見に行こうと誘われるが、サッカー部の試合がありコーチは許してくれなかった。その後、学校のOBであったHeath Mason本人が来校し、演劇コンペを行ない最優秀賞の生徒には弟役でテレビ出演させると全校生徒を前に発表。張り切るTomは祖父にギリシャ神話の本を借りてプロメテウスの劇を書き下ろし、Fraserに主役を譲る。急病で欠員がでると、サッカー部で嫌がらせをするGaryを仲間へ引き込み出場。10チームの最後の出し物となったが、舞台上で本物の火を使ってはいけないうち中止されそうになる。そこでサッカー場へ移動して、観客が取り囲む中、続行。Fraserは得意のタップダンスを活かして人間に火を贈るプロメテウスを熱演し、見事、優勝。Tomも脚本を書く才能をHeath Masonから高く評価された。

(演劇の楽しさを感じさせる作品。何を演じるか議論するところから早くも若者たちの興奮が伝わってくる。)

23) *Worm Juice* (Denise Kirby)

1月、英国の中等学校の授業でMrs Petersonは7月18日にある町のお祭りにクラスから5つ店を出すと発表。生徒たちは工芸品やケーキの店を思いつきメンバーが次々と決まっていくが、最後に残ったのは協力する気のない問題児ばかり。リーダーとなったJustinは単独で考え、母親が見ていた園芸のテレビ番組で紹介されたミミズを使った肥料を作って売ることへ決める。パソコンで情報を集め、必要な道具をそろえ、ミミズもコミュニティー農場で入手。仕方なく関わりだした仲間たちも、嵐の中ミミズを守るのを手伝ってくれた。授業中からかいた言葉を発し続けたGranger Loganも、気弱なColinがかわいがる白い斑点のあるミミズのTrevorを殺すのを思いとどまる。そして祭りの当日、思うように売れない肥料を見事な宣伝で完売させたのは、このLoganだった。

(いじめっ子の改心が感動的に描かれている。)

Level 3 (見出し語 750 語)

24) *CHOIR Boy* (Sue Murray)

戯曲。表向きは教会の聖歌隊、実際は、社会に役立つ

発明家を養成するトップシークレットの組織だ。10代の子供部門で優勝すれば、大人部門に移れる。自信満々のHarley 15歳は、人間そっくりのロボットRobを発明する。24時間ロボットとばれなければ合格と言われ、苦勞の多い長い1日がスタートする。まず自宅に連れて帰ったが、食卓で勧められたスープを飲んでしまい修理が必要となる。しかしRobはイケメンで、家では妹のEllaが、学校ではあこがれのTiffanyが、すっかり気に入ってしまう。ロボットは嘘がつけず正直なので「Tiffanyは自己チューだ」と言って、当てつけにオタクのHarley自身が映画に誘われたりする。みんなから敬遠されているいじめっ子のMorrisも「強い」Robにはかなわない。ところが、この出会いをきっかけに奇妙な友情が生まれ、Robを通してMorrisはサッカー部のゴールキーパーに迎えられ、大喜びする。Robはボールを取ろうとした男子とぶつかってまたも故障。動きがおかしくなったのをHarleyは「ブレイクダンスだ」と言ってごまかす。校庭でみんながおもしろがってまねると、Harleyも一緒に踊り、生まれて初めてみんなから受け入れられる。発明品のRobは合格するが、Harleyは学校生活を楽しむため、大人部門入りを辞退する。(気持ちよく爆笑したあとに爽やかな感動がある青春喜劇。)

25) *Deadly Holiday* (Pauline O'Carolan)

Patは14年も会っていない母Noreenが再婚したTrevorと13歳くらいの連れ子Joshの一家と過ごすためオーストラリアへ。同行した友人のAnnieは、Trevorが黒い服装の大男に殴られ金を要求されているところを目撃。みなでビーチハウスに行くと、Patは海でTrevorに呼ばれて激浪で溺れそうになる。また、Trevorが去ったあと帰り道にNoreenの車のブレーキが利かなくなると、あやうくトラックにぶつかりそうになる。Annieは、共にTrevorの仕業だと見抜く。Noreenはアイルランドの父の遺産を相続し、Patは馬の農場をもらうことになっていたのだ。果たして、ビーチハウスの裏庭で犬が人骨とネックレスを掘り起こす。Trevorの前妻の死骸だった。犬の飼い主Mikeの正体は、姉の謎の失踪に疑問を持ち調べていた前妻の弟。帰ってきたTrevorは駆けつけた警察を振り切り、崖から飛び降りて海へ逃げる。ギャンブル狂で借金に困っていたのだ。連れて行かれたJoshはNoreenが助け出し、Trevorは水死体で発見される。(10代向けのサスペンスにしては陰惨で、じつに嫌な話だ。)

26) *Double Trouble* (Pauline O'Carolan)

フィジーのTavioka島の村長がPapaya島リゾートから自宅に客を迎え、島の日常生活を楽しんでもらうホームステイ事業を始めた。息子のIveriも手伝い、双子の

PeterとMichelleがいるニュージーランド人のRobinson一家を歓迎。ところが、家族は教会で靴を盗まれ、夜中に寝室をカエルだらけにされ、海では白いボートがぶつかってきてPeterが危うく溺れかける。ついには就寝中に放火までされる。村長の事業を邪魔してTavioka島もリゾート化したいBrown氏が、村を追放された悪人Samiを使って行なった嫌がらせだった。IveriのおじViliも手伝っていたが改心。双子の父親Tom Robinsonも儲け話に誘われるが、きっぱり断り、村長にホームステイ事業への協力を申し出る。(発展途上国の経済、人間の強欲と良心がテーマになるが、サスペンスとしては平板。)

27) *Gone!* (Pauline O'Carolan)

私Jenna 16歳は犬の散歩のアルバイトをしている。母が待望の男の子Timmyを出産し、わが家が赤ん坊中心の生活になっていく中、近所の病院で赤ん坊がさらわれる騒ぎが起こる。Northwood Roadに住む女性Celiaが物色し、火災報知機を鳴らし隙をついて盗んだのだ。赤ん坊は病気になって見つかるが、母はTimmyを心配する。私は老婦人Mrs Graftonの愛犬Pocketを連れTimmyを乳母車に乗せて公園へ散歩に出たとき、おむつを交換するため、スーパーに買いに寄る。目を離した隙にTimmyは乳母車ごと消えてしまう。Celiaがずっとつけ狙っていたのだ。私は陰気臭い彼女をたびたび見かけていた。Celiaの夫Jeffから彼女が赤ん坊を亡くし二度と子供を産めぬ体であることを聞き、妊婦の格好をしたり本物の赤ちゃんを抱いたりしていたことを思い出し彼女の家へ侵入。手紙を開封して新住所を知る。そこへ単身乗り込んでTimmyを取り戻し、ナイフを持ったCeliaが迫る中、二階から助けを求め、駆けつけた警察と父親に保護される。

(O'Carolanは何とも後味の悪い小説を書く人だ。主人公も、Timmyがいなくなったとき女警部に犯人と疑われる。人間の意図せぬ悪がこの作家のテーマらしい。一人称小説ながら、全知の視点からCeliaの行動を現在形で並行して語る工夫は成功している。)

28) *In Sarah's Dreams* (Sam Bowring)

父子家庭のSarahは16歳の誕生日に高価な金の指輪を父から贈られる。しかし新しい学校でリーダー格のJillに指輪を強奪されたばかりか、執拗ないじめの標的にされてしまう。そこに現われたのが13歳くらいの謎の少年Jeremyだった。現実の世界ではすぐ消えてしまうが、夢の中では「夢はコントロールできる」と教え、Jillを同じ目に合わせる。Sarahはやり返すことができ爽快感を覚え、自信もついてくる。Marciaという味方してくれる友達ができたのも心強かった。Jillは同じ夢を見ており、次第に憔悴し、ついには指輪を返してきた。Jeremy

の正体は1976年にいじめで死んだ幽霊。Jillを決して許そうとしない怨霊の暴走を、Sarahは、夢の中でJillと協力して食い止め、強い恨みを浄化してあの世に送る。(秀作ファンタジー。教訓と爽快な感動が味わえる。)

29) *Mystery at Lion Rock* (Alan C. McLean)

銀行に勤めるHannahは、高校時代の友人で大学でスペイン文学を学ぶJoに誘われ、夏休みにマヨルカ島へ。ライオンロックの砂浜でアザラシの死骸を見かけ不審に思うが、上に屋敷を構えるロシア人の大金持ちMarkovとボディガードのAndreiに追い払われる。密輸を疑って見張ると、知り合ったRamonも夜、双眼鏡で岩場を監視していた。沿岸警備隊員で、Markovが猛毒のTBODを開発してライオンロックに保管しているという。リモコンで扉が開く岩の中へ二人で潜入し証拠をつかむ。MarkovとAndreiがスピードボートで襲ってきて、Ramonは右腕を骨折するが、待機していたJoが信号弾を打ち上げ、駆けつけた沿岸警備隊がMarkovを逮捕する。(新しい恋人との出会いを描いた恋愛小説でもあるが、安直な出来。)

30) *Stranger Danger* (Pauline O'Carolan)

Chris 16歳は、学校の窓を割ったり、夜中に補導されたりして、忙しかった父がハイキングに連れ出す。森の中でキャンプをする予定が、十代の女の子を餌食にする殺人鬼が死体を埋めているところを目撃。父は胸を銃で撃たれ重傷、Chrisも腕を撃たれたが何とか助けを求め、父と入院する。しかし、そこにも魔の手が。医者へ化けた殺人鬼に注射されそうになり、包帯の巻かれた腕で応戦、警官が駆けつけ逮捕する。白衣姿で、犯人が理科の代用教員Morris先生だと思い出した。新たにさらわれたKateは無事保護される。(教師を殺人鬼にするところがO'Carolanらしい。この恐怖は一読の価値がある。)

31) *The Key* (Denise Kirby)

ぼく(Danny)は、配達不能郵便物を扱うMrs Marshallから花の形をした鍵のことを聞き、転校生のEmmaと図書館や骨董品店を訪れ、100年以上前の宝石箱の鍵と知る。宛名の女性Mrs Moretonは亡くなり家も売れていたが、新しい所有者と不動産業者に頼んで、遺産相続した姪のKateと連絡が取れた。古い家にあった家具は、ぼくの鍵を見て先に訪ねてきた骨董店主のMr Carterがみな買い取るようになったという。ぼくは宝石目当てと直感して、止めに入る。古い収納箱の中が狭いことに気づき、秘密の引き出しを発見。鍵を使うと、中には宝石でなく、Kateの早く亡くなった母が生まれたばかりのKateに宛てた手紙が入っていた。(Mr Carterがけち臭い悪役として、心温まるオチを盛り上げている。)

32) *The Man Next Door* (Pauline O'Carolan)

Annieのグラスゴーの家は銀行の2階にある。そこへ、母の入院中にアイルランドで世話になった2歳年上のPat16歳が遊びに来る。母Sandyは退院して働いているが、夜中に隣部屋から聞こえる電気ノコギリの騒音で眠れず悩む。やさしいAngus老人が留守で、黒いコートを着た見知らぬMcDonaldという男がドアの修繕や戸棚づくりを任されたと花を持ってあいさつに来たが、どうも怪しい。AnnieとPatは密かに彼の行動を探る。そして、Angusの息子から母が預かっているスペアキーで隣部屋へ。手脚を縛られたAngusと床に開けられた大穴を発見。近所の工場閉鎖に伴う最後の給料日を狙った銀行強盗計画だった。Patは得意のスケボーで、銃を持つMcDonaldの顔面を直撃してAnnieを守り、警察は、手引きした銀行員のMr Duncanら犯行グループを逮捕する。(⑰⑳とAnnieとPatのシリーズを構成する。謎の真相は単純すぎる。)

33) *The Rainbow Girl* (Philip Voysey)

Maribella 14歳はせむしで、村から呪われた子として差別され、学校にも行けない。父も呪いを信じて幼いときに去り、母Luzと二人暮らし。羊の番をし、座った岩から見える山頂の虹の中を歩くのが夢だ。唯一の友人Gregorioも父親であるセニョールNinantayが関わり合いを嫌う。Maribellaが無理して山頂をめざし行方不明になると、Gregorioは父に救助を懇願。発見された彼女は手術が必要になり、母と都会に出る。元気になったMaribellaは山の生活を愛し、単身、村へ帰る。ちょうど学校の子供たちが次々と行方不明になる恐ろしい事件が起こっていて、Gregorioも犠牲になる。黒魔術でピューマ、コンドル、蛇に変身できる白人のよそ者pistachoが食ってしまったのだ。Maribellaは、自分で編んだ虹色のベルトを秘密の力で操り、pistachoを縛り上げ退治。村人に感謝されるが、孤独のまま山頂の虹の中へ去る。(ペルーの伝説をモチーフにして深い感銘を与える。)

34) *The Secret in the Farmhouse* (Paula Smith)

博物館 Mayfield Houseでの宿泊学習。オリエンテーリング中、Alex, Matt, Dan, Hannahの4人は雨宿りした農家の空き家で、盗品が詰められた多くの箱を発見。それは、警備員のRoverも加担してMayfield Houseから盗み出したものだった。警察が何もなかったというので、4人は調べに戻り、地下室に隠されているのを見つける。男子が泥棒に捕まってしまう、女子が走って先生に知らせる。カメラ好きのAlexの写真が犯行の証拠として役立つ。問題児と見なされていたDanが報奨金を寄付する。

(本シリーズ中ありがたいな話で陳腐さが目立つ。決定的なおもしろみに欠ける。)

35) *What Rose Saw* (Pauline O'Carolan)

オーストラリアのブリズベーン。Rose 16歳は昼寝をしても、車を運転する母が事故を起こし死ぬ悪夢を見て、悲鳴を上げながら目を覚ます。建築家の父Daveは、できる限り自宅にいて面倒を見ている。母が亡くなってから登校できず、Susanのカウンセリングを受け一緒に出かける以外は、近所のフラットに住むGrace先生28歳が様子を見に来てくれる。DaveとGraceは互いに好意を持ち始めRoseは邪魔したくもなるが、Grace先生がカフェでバッグを盗まれ、何者かに鍵をコピーされて勝手に部屋に入られたり、しつこく電話やメールが来るのを見て心配。ベランダから双眼鏡で見つけた、Graceを盗撮したカメラマンがストーカーをしているのだとわかった。父Daveも心配し、Grace先生は引っ越しても、独占欲の強い元婚約者Warrenがずっと追いかけてくると告白。味方になったDaveはこの男に外で襲われ重傷を負い、Roseは、Grace先生宅のドアを蹴る彼に勇敢に立ち向かう。警察が駆けつけ、先生の車で父の病院に行くとき、Roseは自動車恐怖症が消え、再び登校できると確信する。(単純なストーカー事件を謎めいて劇的に描いた。)

Level 4 (見出し語 1100 語)

36) *Second Chance* (Paula Smith)

Joanna 15歳は、舞台のスター女優をめざし、学校の劇場で主役の座を狙っている。ところが、今年の出し物はミュージカルの『グリース』。歌は苦手な笑われたことがあった。親友Lisaの後押しでオーディションに出たが、またも笑われるはめに。楽屋で慰めてくれたのは、Josephという演劇に詳しい老人だった。以後、Joseph氏の指導を受け、Joannaは見違えるように歌が上達する。Sandy役のSarahが恋人役のMarkとトラブルを起こして去り、代役のRachelが全くセリフを覚えていないことがわかって、舞台監督のMoon先生は頭を抱える。JoannaはJoseph氏とMarkの励ましを得て、再オーディションでついに主役の座を勝ち取る。しかしその後、劇場の物置で火災が発生。Joseph氏が姿を消したため、楽屋にいたJoannaが疑われる。ロッカーから盗み出した品々が入ったスポーツバッグが見つかり、Jasmineの不良グループが物置を根城にしてタバコを吸っていたことが明らかになり、舞台は予定どおり上演。Joannaは大成功をおさめ、拍手喝采を受ける。彼女は、楽屋の床に落ちていた新聞の切り抜きから、Joseph氏が1936年に舞台の事故で亡くなった名優だったことを知る。裏には、Joannaを激励するメッセージが記されていた。学校の劇場はJoseph氏を記念して建てられたものだった。(まさかファンタジー

だったとは意表を突かれる。1936年に亡くなった人が1950年代の若者のミュージカルを21世紀の女の子に指導するというのも妙な感じがする。意図はあるのか?)

37) *Blown Away* (Sue Murray)

カリフォルニア州サンタバーバラの高校で全校生徒を前にぼくCorey16歳がサモアのSavaii島であった体験を語る。——眼科医の両親の医療協力にいやいや同伴。英語がしゃべれるサモア人の男の子Tapuに付きまとわれ、自分の部屋など当然ない貧しい地元民と仕方なく交流し、食事のまずさにうんざりしながらも、20代のニュージーランド人サーファーGrantから、大好きなサーフィンのテクニックを学ぶ。ところが、大暴風 (Rosaと呼称) に遭遇。ホテルまで車で帰ろうとするが、Grantが脚を負傷。ぼくが代わりに運転するが、先に進めなくなり、Tapuの案内で洞窟に避難する。豚や鶏と一緒にいる地元民たちと真に交流し、地元料理も初めておいしいと思う。4日目にヘリコプターで父が助けに来てくれたが、Grantは感染症で亡くなっていた。——ぼくは、壊滅的被害を受けたSavaii島の人々に援助の手を差し伸べてほしいと訴える。(高校生が精神的に成長する異文化交流の物語。講演をしている謎は、最後にやっと解ける。)

38) *Murder Weekend* (Denise Kirby)

Millyは、ケータリング業を始めた母Hannahに同行して、わびしい田舎町のカントリーハウスへ。俳優たちが一般客と一緒に宿泊し同じ食卓について殺人劇を演じる「殺人事件の週末」企画に呼ばれ、母は時代遅れの台所で全員分の料理づくりを任されたのだ。手伝いのMillyは食事を運ぶのが仕事で口出しはしないわけだったが、ダイニングルームの絵が消えたことにいち早く気づき、管理人用コテージで暮らす所有者夫婦と会って、その絵が、没後高騰している地元の画家Isadore Richmondの作品と知る。当初、劇のヒントだと思っていたら、本物の盗難事件だった。犯人は誰? Millyは、夜中に冷蔵庫を漁っている男と遭遇。暗闇の中逃げられ忽然と消えてしまったが、その後みんなで捜索し、料理をダイニングルームへ直接運ぶために以前使われていた通路を発見。そこに問題の絵と息をひそめて隠れていたのは、用事ができて車で先に帰ったはずの建築家Cliveだった。去った車を運転していたのはCliveの相棒で本人ではなかった。去ったときにまだ絵はあったというアリバイをつくったあと、絵を盗んで迎えに来てもらうつもりが、道路が夜間閉鎖され予定が狂ってしまったのだ。(推理小説らしいトリックとクライマックスを用意し、Millyが親しくなる俳優の一行も魅力的に描けている。金に困っていたというCliveの動機が陳腐で、本来中心となるべき

劇中殺人の概要がよくわからないところが玉に瑕だ。)

39) *Road to Nowhere* (Pauline O'Carolan)

Greenfields農場で両親と暮らすNickは夜、愛犬Zipと散歩に出て、海岸で移民たちが違法に上陸している現場を目撃。手引きしているのは隣人のFred Masonだった。父から、関わらぬよう厳命されたが、通学のためバスを待っているときに、Valda Stoneに召使として虐待されている異国の娘の哀れな姿を見かける。移民たちを運ぶワゴン車の事故で腕を骨折して放置されていたMaximから「妹を捜して」と頼まれたが、このMariaこそ上陸後に離れ離れとなった妹だった。Masonはラップズイセンを一日中移民に摘ませて大儲けしていた。父親は警察の協力依頼に応じる。録音されているとは知らずにMasonは自ら不正を語り、夜、新たな不法移民を迎えるところを逮捕される。両親の事故死で財産をおじに横取りされたうえ売られてモルドバからイングランドに来た兄妹は、政府の特別な計らいで永住が許され、Greenfields農場の子供として暮らすことになる。(身近な人々のあからさまな不法行為と、正義の名のもとに行なわれる裏切りは読んで不快だ。MaximとMariaの苦難は劇的だが、Nickをうんざりさせるほど貧しいはずの農場一家が二人を引き取る結末はご都合主義のハッピーエンドに思える。)

40) *The Alati Collection* (Pauline O'Carolan)

イタリア。Mia16歳は有名なオペラ歌手Rosaの娘で絵を描く才能があるが、皮肉にも豊唾者で母親との関係がうまくいっていない。足の悪い祖母Nonnaと在宅中に、黒いマスクを被ったノッポとチビの二人組が、父Carloが所有するAlati家の絵画コレクションを狙って強盗に入る。機転のきくMiaは手話を使って祖母と連携。睡眠薬入りの料理を食べさせてマスクをとった顔をこっそりスケッチし、二人が眠った隙に脱出。Miaは無人の教会に祖母を隠して、助けを求めに出て再び捕まってしまうが、Nonnaのほうは、やって来たチビを杖で転ばせて、二匹の飼い犬と奪った銃で警察に引き渡した。父Carloは身代金を持ってきたところを殴られ気絶するも、Miaは全部の指に指輪をつけている黒幕The Collectorの手を描いていた。逃走したノッポと黒幕の画廊店主は逮捕され、Miaは練習成果の声を聞かせ、母Rosaの誇りの娘になる。(強盗を指揮した黒幕がCarloの友人だったというオチはO'Carolanらしいが、明るい印象の作品。)

41) *The Singing Stones* (Sue Murray)

唯一赤毛のFinnは魚が湾からいなくなる嵐のシーズンを前に漁の手伝いをするが、船に酔い森のほうに性合っている。Gondar将軍が兵を差し向け、追われる身とな

った彼は亡き母が遺していた手紙を読み、金の腕輪をつけ、なつかしい子守唄を歌う2つの宝石を発見。これらに導かれ、唄に込められた使命を果たすべく冒険の旅に出る。未来を読むsky readerのLorca、宝物が大好きな翼のある3匹のサルnylarsを味方につけ、暗黒の森で牙をむく木snake treeに、美しい谷間で飛んでくる大きな昆虫に、橋の上で血を吸う巨大なナメクジvooamaxに襲われそうになるが、勇気と知恵で逃れる。そして、目的地である城壁都市Lianaの広場で、古代神Zanの像の両目のくぼみに宝石をはめ込み、腕輪を王冠として被せると、剣を抜いて襲ってきたGondar将軍が石化。石像になっていた母と父が甦る。FinnはAvondelの民衆を解放して、長くつづく平和をもたらしたのだ。(脚韻を踏んだ物語詩“The Song of the Singing Stones”を子守唄として巻末に収録する。凝ったつくりの冒険ファンタジー。)

42) *The Sky Readers* (Sue Murray)

Lewinは16歳の誕生日に祖父Laylanの訪問を予見する。酪農を営む父の反対を押し切り、過去・現在・未来を空に読み取るsky readerのテストを受け合格。5歳の弟Lorcaと別れ、戦争で権力を握りAvondel国で悪政を敷くGondar(祖父の幼馴染)の野望を挫きZan神を復活させるため、大空に見た赤毛のMarielが夫Olafと幼い息子Finnと暮らすFirebird山の洞穴へ旅する。彼女は消えたZan神を蘇らせるために必要な腕輪と宝石を持っていた。一家は迷路を、孫と祖父は農村Heartlandsを通って城壁都市Lianaをめざす。LewinとLaylanは途中greeblesの罠にかかり奴隷にされそうになるが、Lewinの被っている帽子が弟が作ってくれたティーポットカバーだと知って頭領Grunchの老父が大笑い。3日以内に笑わせたら自由の身にしてやるという試練を乗り越え、Mariel一家と合流。彫像広場で、Gondarが邪神Banshee像から黄金の剣を手に入れようとするのを一行がZan像と阻止。しかし、Marielと夫Olafは石化してしまい、Lewinは二人の子Finnを約束どおりMarielのおばTiaのもとに送り届け、次の機会を待つ。(The Singing Stonesよりもおもしろく読め、前作に奥行きと感銘を与えている。)

43) *What Happened at Seacliffe* (Denise Kirby)

家系図を作る母のため、海に臨むイングランドの美しい村Seacliffeに先祖の調査に来たオーストラリア人のCully。地元の家系研究家のEm老人の助けで、元領主の墓地でルーツであるMary Prestonの墓を発見し、いとこのJeremyと知り合う。Maryの息子兄弟がRobertとJohn。前者はおじWilliamの遺産を相続し、その子孫は200年も領主の邸宅Manor Houseで優雅に暮らしているが、後者は偽造罪で1831年にオーストラリアの刑務所へ送られ、

Cullyは大学教育を受けるのに借金をしなければならない。ところが、法律事務所に残されていたWilliamの遺書の相続人はJohnだった。Cullyは一旦断ったJeremyの母Dianaの招待を受け入れて大邸宅に宿泊し、図書室に保管されているWilliamの遺書を調べ偽造に気づく。真相を知っているため高圧的にふるまう母子に、Cullyはお金を奪うつもりはないと笑い、いどこに別れを告げる。(歴史ミステリーの力作。観光地Seacliffeと主要人物がいきいきと描かれ、邸宅内でCullyが自分そっくりのMaryの肖像画と向き合う場面は重厚な雰囲気がある。)

Level 5 (見出し語 1500 語)

44) *Racing the Tide* (Denise Kirby)

父の転職でトレーラーハウス暮らしを始めたEllaは、アクセサリ作りを学ぼうと近所に住むDoraを訪問したが、何者かが部屋を荒らしていった直後だった。彼女の教え子のJennyが行方不明になり、Jennyの作ったブレスレットをEllaは知らずに拾っていた。隣のトレーラーハウスに住むHogan夫妻が怪しい。弟Eddieの自転車で車を追跡し、砂浜のぼろ船に監禁されていたJennyと共に手足を縛られてしまう。夫妻はDora所有の真珠のネックレスを狙っていたのだ。潮が満ちてくる中、Ellaは窓をけり破って脱出。Jennyをどうやって助けるか困っていると、日記をまたも盗み見たEddieがDoraと助けに来てすべてが解決する。(オーストラリアが舞台。ケチくさい事件を立派なサスペンスに仕立て上げた。)

45) *Sorrow* (Philip Voyagey)

Sorrow 16歳は、希望のない農村から都会のChimukaへ上京。独立戦争の英雄として有名なおじのLovemoreの家からあこがれの学校に通う。ところが、おじは戦争で幼い子供も含む白人一家を皆殺しにしたことが忘れられず酒浸りになっていて、Honestyら子供の窃盗団を使って生活していたのだ。Sorrowも学校を続けるために否応なく他人の財布を盗むテクニックを身につける。尊敬する歴史教師Sibandaが救いの手を差し伸べてくれて、先生宅に住まわせてもらい、拾ったエレキギターを直して弾き方を学ぶ。Sibanda先生が企画したバンドの学校コンサートは大成功。新たな希望を見つけた青年は和解するため、おじの家に向かう。(読者に衝撃的な現実を突きつけたのに、最後は甘いファンタジーに陥った。)

46) *When the Sea Came In* (Mary Tomalin)

地球温暖化で大洪水が起こり、自動車もテレビもコンピューターもない未来のオーストラリア。Mark 17歳は、

2年前に母Marthaを亡くし、夜、不良グループと店から銃を盗むなど荒れた生活を送っていた。Axelの町長でもある父Loudon Traherneは馬の農場を営み、毎年恒例となっている海辺の村Haverhillへ馬を売りに行く旅に息子を同行させる。しかし、諍いからMarkは一人去り、姉のMeenaが後を追う。その直後、大津波が沿岸地帯を襲う。さらにMeenaが悪名高い盗賊団Speedstersにさらわれてしまう。Markが単身救出し、追っ手を縛り上げ、壊滅したHaverhillへ戻ろうとしたとき、わが子を捜しに来たLoudonの一行と遭遇。父はMeenaを救ったMarkの活躍を称え、父子はやっと和解する。(未来というSFを連想するが、本作は父と息子のありがちな物語。)

47) *Wild Water* (Sue Murray)

あだ名がMouseの僕は、高校の卒業旅行としてScottが提案した6日間のBlack Bear川急流筏下りに、気乗りしなかったが、仲の良いDarioとRyanの4人で参加する。Martinsvilleで母娘LindaとPetraも加わり、企画した経営者のRickと息子のHalが2つの筏のそれぞれのキャプテンを務め、ロープ投げやパドルの練習後、出発。Scottは、父親が女をつくって家を出たことを怒り、精神的に荒れている。キャンプ中けんかを止めようとしてRickが左手にやけどを負い化膿。嵐で増水したが、無理してクラス2の急流を進み、障害物にぶつかって転覆。陽気なLindaおばさんが頭を打ち重傷。衛星電話は流されてしまい、Halと僕たち4人はケータイの電波が届くところまで筏の旅を続けることにした。僕は足首を痛めたり筏の下に落ちたり危険な目に合うが、「悪魔の肘」「洗濯機」と呼ばれるクラス4の急流を乗り越えて自信をつける。Lindaを病院に運ぶへりを確認。終点の橋まで3時間のところで最後のキャンプ。食料が流れ着き、僕たちは、その後の人生を変えた冒険の成功を祝う。(筏下りの興奮を味わえる快作。CDの朗読も秀逸だ。)

Level 6 (見出し語 1800 語)

48) *Body on the Rocks* (Denise Kirby)

Beckyは、親友のAmberとNatalieと共にRottnest島の коттеジで2週間を過ごす卒業旅行で解放感を味わうが、ウエストエンドへのサイクリングで見つけたのは、崖下の岩場で死んでいる腕に蛇の刺青をした51歳の元囚人Radcliffの絞殺死体だった。以来、悪夢にうなされる。灯台を見学したとき歴代灯台守名の中にRadcliffと同じ変わったミドルネームを持つLeslie Newmanに気づく。父親かもしれない。彼こそは、1961年に島を震撼させた16歳の少女Lizzieの絞殺事件の犯人と見なされ、島の有

力者であるScanlon家の息子の目撃証言の後自殺。過去の事件を調べるBeckyは、知り合ったRichardが子供のときに埋めた宝箱を掘り起こすのに立ち合い、入っていたネックレスを贈られる。昔話をしてくれたRuthが、それを見てうろたえる。殺された姉のものだった。Richardはそれを祖父の洋服だんすで見つけたという。Richardも殺人に関わっているのかと疑い、一緒に訪れた第二次世界大戦の砲台のトンネルを走って逃げる。外には、殺人現場近くで見た野球帽の男が待っていた。Richardの祖父だった。Beckyは自分の推理をぶつけ告発。見学を終えた人たちが集まる中、Richardも真相を激しく迫り、祖父Charles Scanlonはついに過去の「間違い」を認める。ここで読者は、説明なしで小説冒頭で描かれた導入は、父親の日記を見つけて父の無実を知ったRadcliffが真犯人の邸宅に押し掛けた場面だったと知る。Scanlon老人は口封じのためにRadcliffを殺したのだ。事件解決後、Beckyたちは嫌なことは忘れて、残りの休みを3人だけで楽しむことにした。(グレイディッド・リーダーを対象とするLanguage Learner Literature 賞受賞作。初めて見た死体に取り憑かれたようになって過去の事件の真相に至るミステリーサスペンスだが、なぜBeckyなのか。Richardとの仲も唐突に終わり、後味は悪い。)

49) *Broken Wings* (James Roy)

オーストラリアGeraldtonの空港。双子の兄妹は引越した両親に会いに行くために、おんぼろの軽飛行機に乗り込む。パイロットは、急きょ変更になったという汚いTシャツを着たEric。飛行機マニアのSimonは、操縦席の隣に座って満足だが、後ろに座って暇つぶしにスケッチを描いているAngelaは、GPSが故障していることや、ソフトドリンクをがぶ飲みしてものどが渇くEricの異常に気づき、不安が募っていく。予定到着時刻の4時を過ぎて着かず、頼りに飛んでいると聞いたコンパスをEricがもう見えていないことに気づく。呼びかけても肩を叩いても反応がなく脂汗を浮かべた顔は蒼白。Ericは、糖尿病で意識を失い操縦桿に突っ伏し、飛行機は急降下。兄妹はなんとかEricをどかして、Simonが操縦桿を握る。「メーデー」と無線で急難を知らせ、着陸方法を習ってなんとか砂漠に着陸するが、Simonは片脚を骨折してしまう。Ericの意識は戻らず、バッテリーが切れて無線の会話もできなくなる。夜、気温が下がり、銃声がして新たな危機? それはカンガルー狩りに来たアボリジニのピックアップトラックだった。3人はカンガルーの死骸を積んだ荷台に乗せてもらい診療所へ。翌日、ヘリコプターが迎えに来る。(前半のサスペンスが最高に楽しい。後半は、トラックのエンジンがかからなくなったりパンクしたりするが安心で、カンガルーの死骸を枕に星空を

眺める場面がなんとも美しい。ユニークな作品だ。)

50) *The Art Show* (Paula Smith)

Sophie 17歳は、画家志望で美大に行きたいが、両親は就職のことを考えて普通の大学に行かせたがっている。特に母親は大反対で聞く耳を持たない。絵の才能を高く買っているMrs Paceの勧めで、プロの画家Joshua Kingの展覧会に出席。本当に絵を理解している批評をしてJoshuaに喜ばれ、益々美大で学びたくなる。バイト先のスーパーで世話になっている50代半ばのDorothyが、Giorgioのカフェで個展を開き母に見てもらったらいいと提案、話を進めてくれたうえ、家の物置をアトリエ用に貸してくれた。Dorothyは養女でカナダにいる生母を訪ねたがっていたが、Sophieが調査を依頼するとすでに亡くなっていた。代わりに、双子の妹がデパートで働いていることが判明。初めての個展はPace先生がJoshua Kingら美術関係者も招き、作品も売れて大成功。母親も美大進学を許してくれたが、さらに嬉しいことに会場にはDorothyと瓜二つの妹、Helenも訪れていた。

(安定志向の親の気持ちを理解したうえで才能を伸ばすことを応援するDorothyの造形が見事。Joshua Kingとの

会話に、Sophieの絵画愛と才能がよく表われている。)

51) *The Creature* (Alan Milson)

地球を捨てて4世紀。Epsilon星の人類は新たな移住先を必要とし、宇宙生物の研究のため、3,280人を乗せた宇宙船The Voyagerは3年目の航海中だった。15歳のKinは、母が指揮する探検に初参加。Aldebaran 4で捕獲した、人間の1.5倍の大きさがある一つ目のタコのようなエイリアンのため、23時間も昏睡したあと目を覚ます。母を含め、他の者は意識を失ったままだ。病原菌に汚染されていたら母星には帰れない。KinのガールフレンドTesaの父親でもあるTesjak船長が、アトミック銃をロボットに持たせ殺処分も辞さない緊迫した中、Kinは友情を信じ、エイリアンとコミュニケーションを取ろうと奮闘。Aldebaran 4の原生生物ではなく不時着して避難していた知的生命体の子供であることが判明する。KinとTesaは、巨大な母船にこのSsk-kja-11n-sss-kja-11s-kajaを送り届ける。(前半は、映画『エイリアン』シリーズを彷彿とさせる未知の惑星探検の恐怖、後半は『E.T.』でおなじみの感動の展開となる。挿絵が稚拙なのが残念だ。)

A Guide to Richmond Robin Readers: Teenagers' Various Adventures

Koichi YOKOYAMA

This is a summary guide to 51 books of Richmond Robin Readers, which seem to be targeted at teenage learners of English, judging from the ages of the protagonists: 12 or 13 to 19 years old in accordance with the levels from 1 (300 headwords) to 6 (1800 headwords). The characteristics of this series are as follows: 1) A fifth of the stories are set in Australia whose indigenous animals such as crocodiles and kangaroos are effectively used in Jane Bowring's *Cousins and Crocodiles* and James Roy's *Broken Wing*. 2) Half of the books are about the teen protagonists fighting against adult criminals, mainly robbers. Although some of them are quite humorous like Denise Kirby's *Black Night*, others are unexpectedly serious like Pauline O'Carolan's *Ride for Your Life* and *Deadly Holiday*. A unique writer, Ms. O'Carolan prefers describing evil doings of abnormal people like an arsonist, a stalker and even a serial killer. 3) Many of the stories are based on the protagonists' newly found leisure activities such as skiing, scuba diving, horse riding, orienteering, ballooning, yachting, and rafting, out of which powerful stories like Ms. Kirby's *Hot Air* and Sue Murray's *Wild Water* were born. Since those recreational experiences are not so hard to be accessible to teenagers, they will probably enjoy reading such rather approachable adventures.

Other recommended books you cannot miss in this series are Sue Murray's *CHOIR Boy* (a good-looking boy robot causes a lot of trouble at school), Sam Bowring's *In Sarah's Dreams* (a girl fights back the bully in her dreams), Philip Voysey's *The Rainbow Girl* (an outcast, hunchback girl kills a monster for her village), and Denise Kirby's *What Happened at Seacliffe* (through the visit to her rich cousins in England, an Australian female student gets to know that her ancestor was robbed of his inheritance and forcibly sent to the faraway land as a criminal most probably by his own brother).